

12
山本康貴
山崎

昭和三十五年十二月二十二日招集
第四回市議令定例令々議錄

館山市議会第四回定例会々議録

昭和三十一年十二月招集

一十二月二日(木曜日)

一現在議員三四名でその氏名次の通り

一 番	山本 早	二 番	脇田 順一
三 番	三沢 節	四 番	志村 信作
五 番	岩崎 静敬	六 番	岡田 繁
九 番	吉田 勇治郎	一〇 番	佐野 信
一一 番	川名 房吉	一二 番	黒川 佐太郎
一三 番	長谷川 光江	一四 番	江田 徳太郎
一五 番	小林 寅之助	一六 番	石井 孝
一七 番	安沢 徳順	一八 番	安西 政治
一九 番	法木 嗣郎	二〇 番	萩生 四七郎
二一 番	後藤 由三	二二 番	田中 禄郎

一議事日程

第一 報告第二五号 昭和三十一年度十月例月検査報告

二六号

十月

二七号

十月

二八号 検査報告(小学校及び中学校)

第二 議案第九号 生徒用机腰掛の購入について

第三 九号 市道の路障の認定について

二三番 吉田辰雄 二四番 飯田義男

二五番 鈴木市藏 二六番 鈴木彦太郎

二七番 田中忠藏 二八番 加藤良太郎

二九番 遠山ヨネ子 三〇番 北山英雄

三一番 田村喜三 三二番 鈴木孝

三三番 山口幸三 三四番 松本藤太郎

三五番 山口康 三六番 嶋貫北作

第四 議案第九六号、固定資産評価審査委員会委員の選任について

市議会、同意を求めたについて、

第五 九七号 館山市財政調整積立金条例の制定について

第六 九八号 昭和三十五年支期末年当り特別に關する条例の制定について、

第七 九九号 昭和三十五年度館山市入支出追加更正予算、

特別会計、公益資産入支出追加更正予算

国民健康保険

と畜場

休養施設

第八 認定第一号 昭和三十四年度館山市入支出決算書目

特別会計、公益資産入支出決算書目

国民健康保険

波左間及び加賀名地区簡易

水道事業文入文出決算書

一法第百二十一条による出席説明員

市 長 田村利男

助 役 小出武男

収入 役 完 戸 貴

總務課長 山口 実

秘書課長 山谷潤昶

商工水産課長 羽山 房雄

福祉事務所長 長谷川光江

厚生課長 伊藤幸太郎

保険課長 神作啓次郎

税務第一課長代理 高宮兼次

第二課長 多田 俊一

農畜統課課長 吉田耕一

一本議会の事務局長書記および職員

市民課長 高木哲三

建設課長 新井重助

選管書記長 大島重義

消防署長 安藤亀吉

教育長 工藤和平

庶務課長 鶴沢貫寛

監査委員 川上栄

事務局長 高梨清一

書記 太田博雄

職員 兵藤恭一

同 山口晴之

一千前十時十分開会

出席議員三十四名

一欠席議員ナシ

議長(山本 早)君)本日出席議員数^{三四}名、これより第四回市議会定例会を開会いたします。

本定例会の議案説明のため、田村市長、小出助役、完戸收入役、山口課長、山谷課長、多田課長、羽山課長、新井課長、吉田課長、神作課長、伊藤課長、高木課長、長谷川沙長、安藤署長、富宮主事、工藤教育長、鶴沢課長、大島書記長、川上監査委員以上の出席を求め、こので御報告いたします。

会議録署名委員の決定を行います。

本定例会の会議録署名委員に三五番議員山口康君、三六番議員岡貫壮作君、以上両君を指名いたします。に御異議ございませんか。

(「里議サ」と呼ぶ者あり)

議長山本 早(君)御里議サ」と認めます。

「ッて決定スルヨ」だ。

議案を配付します。

(議案配付)

議長山本 早(君)議案の配付漏れございませんか。

「ッ」と認めます。

会期の決定を行います。本定例会の会期について

議会運営協議会へ意見は本日と明二三日の二日間

ということとあります。

お諮りいたします。

会期を二日間と定めますことに御里議ありませんか。

(「里議サ」と呼ぶ者あり)

議長山本 早(君)御里議サ」と認めます。

本日の議事はお手えに配付の日程表により工程いたします。
まず本定例会の議案につき市長の説明を求めます。
その際申しあげます。議案説明と同時に市長
の方からかねて館山市を中心として取り組んできた中央デ
ィのこと、並みに今回厚生省におきまして全国の休暇村
の設置の問題につきましていろいろ情勢がありま
すのでこの点市長より報告いたすというのと申しあげ
ます。それと合わせて報告いたします。

(市長田村利男君登壇)

市長(田村利男君)本日、昭和三五年第四回定例会を招集
いたしまして当面いたします諸案件につきまして審
議をお願いすることによりまして、一年不更端の折
からまことに御苦労様な存する次第でございます。
本日上程いたします議案は生運用机腰掛購入の件、

その他九件と昭和三四年主一般会計ほか三会計の
決算を認定する件でございます。

各議案の内容につきましてはそのまゝにとり課長
から詳細説明させていただきますが、この際その概略を申し上げ
て御審議の御参考にいづいて存する次第でございます。

第一に生徒用机腰掛の購入であります。これは
新年度に中学生増加に伴う不足分六六〇個
を購入契約いづいて新年度遺漏なまを期し
たいというものでございます。

次に市道の認定につきまして、これは議案に添付してあ
ります畧図と御覧になれば御了承願えらると思
います。

次に固定資産評価審査委員の委員の中で里瀬

芳雄君が本月二〇日任期満了とリリ了りが引了院
より同氏より選任してというわけでも引了た御同意
を申し送りる次第でございます。

次に本年度四月地方財政法の一部が改正され、
地方自治体の財政が長期的に健全性の確保を要
しますように決算上剰余金が生ずる場合には長期
的財政源育成のため積立金を行うんだ、翌年度以降
の財政調整に十分配慮すべきことが義務づけられた
のでございます。それに因する必要と条例を制
定して法律の趣旨に沿って、こういう次第
でございます。

次の三五年交期末手当の特例に本年の十二月に支給
すべき期末手当の額と特例によって定めようとする
ものでございます。

次に各会計の追加更正案でございますが一般会計体
養施設以外の会計は大体人件費だけの追加でござ
います。一般会計の追加額は人件費約三百五十二万
物件費約百四十万、都市計画その他の事業費
約三百七十一万でこれが財源というわけです。地方交付
税、国庫支出金等が約百十二万、結果的には純
追加額七百五十二万、^{の更正はより補います}八千円とござります。
特別会計体養施設につきましては予想以上に順調
に運営されましてこの分は来年度は一般会計
からの繰出金は必要なくなるだろうという明るい見
通しが生じております。本年年度の見通しといえ
ば、ましては若干支出が不足すると予想されます
ので約百八十万円の追加をぜひ運営に万全を期
したいと存する次第でございます。

最後に昭和三十四年度各会計決算の認定の件について
上程いたしました。これは地方法自治法の規定に従い
まして監査委員の監査を委しまして意見書と付する
とともに各部内別に予算の執行と事業施策の
施行に關する報告書を添付いたしまして、この度慎重
御審議の上認定下さるようお願いいたします。

概畧以上通りでございます。どうか十分に御審
議を承ります。御賛同賜りますようお願いい
申し上げる次第でございます。

このほかちょっと二つばかり申し上げると思います。

かれど新築の御承知の通りだろうと思ひますが、安
房中央用水設置計画、いわゆる丸山ダムでございます
がこの問題につきましては過去七八年間いろいろ
難儀にぶつかりまして、その実行が不可能なと思われ

るようの場合にぶつかりまして国果に陳情いたします
ること実に五、六の回以上にしてあるわけでございます
す。この間国果の支出されまして事業費につま
ずしても多額に上つてありまして国が四百五十万
果が百七十万、市が三百六十万、このようにを要する使
たわけでございますが、ようやく十日ほど前に丸山町長
さん五人の代表、くどう岡西部落の代表全員出席いた
しまして席上で面談を合しまして円満に解決がついて
あとは正式調印をするにべくなつたわけでございます
このためにできることにしまして、館山市全体に潤う面
積は莫大であります。館山市今後、岩山村計画に画期的
な事業と思われれます。いろいろ今まで御協賛願いまし
た議員諸兄に厚くお礼と感謝を申してあげます。
工事費五億六千万円でこのために仕上げていくという

人が私の願ひでございます。五億六千万といふ、まゝ

でも大体が国の予算でございます。一歩、土地下
もっている人は一千万をばせば中央の負担金に
おそれるということでございます。現金で必ず負担で

はなつてありまして、それ後の負担をばせば全体は
事業費五億六千万と順調に解決できろというの
が本向題の概要でございます。以上中央のみにつゝ
ましては概略を申しさす。

次に国民休暇村が今厚生省で大きな問題になつて、
ましては、麻を養育で国民全体に休養、レクリエーシヨニ
を万遍なく受ける必要があるという憲法の方針にとつ
と、お出発していただくございます。

簡単に申して、三百六十五億の金と今年
度のこの議会に上程いたしまして、そのうち八五億の

金が従来の厚生年金でございまして

今年から新しくできまして国民年金の金が莫大に
額に上るそうでございましてそれが大体二割五分
厚生省で使える金、二百三十億でございまして、
これを国民休暇村へ使いたい、これをニ〇ヶ所へ割
りますと大体一ヶ所四億乃至五億のもの、各場所
へ作る。例えば今館山市で希望してある西岬と
中心と一ヶ場所、大体四億乃至五億の金で作
りたいというが、この議会を通り次第決定されるわ
りでございまして三百人収容のもの、二棟乃至三
棟、こういうものを下行うために国民休暇村事業団
というものを新しく作りましてこういうものを計
画して実行に移したいというわけでございまして
こゝに仮想図がございまして、これは単

なる仮想図でございす。が、実現のほかに、なる可
能性も強くございす。その中で、中間報告として、大
体の構想を申し送り、参考にして、供に、いと思ふ次
第でございす。

議長（山本 昇） 日程第一 報告第五号 二六号 二七号 二八
号を、一括して、いす。

（書 記 朗 読）

報告第五号 昭和三十五年度十月例月検査報告

二六号 二六号 二六号

二七号 二七号 二七号

二八号 監査報告（小学校及び中学校）

議長（山本 昇） 昇、本業に、お、いす。川上監査委員の、説明を、求め
ます。

（監査委員 川上 栄 君 登壇）

。監査委員（川上）栄君報告につきまして御説明申しを頂きます。
昭和三十五年交十月の例月検査の結果を御報告申しと
致します。

一般会計支入の市税収入におきましては調定済額一
億四千二百三十七万六千二百四十三円でありまして
九月の収入済額は六百四十五万三千六百三十三円であ
ります。九月末累計六千九百五十九万三千四百
六十二円で調定済額に對します収入割合は四八・九％
となっております。細期の到来してある調定額と
収入額の割合は七四・七％

収入未済額は七千二百七十八万あまりとなつております。
がこのうち過半交分の滞納額が千四百二十三万あまり
それかうまひ納期未到来の分が四割九百十六万六千百
六十五円となつております。

納期到来のものに対する滞細の割合は二五・三%となつて
あるのでございます。

税外収入でございますが調定済額は一億一千四百四十
七万三千四百四十五円でありまして予算額に対し
まして調定済額は五五%でありまして九月分の収入
額は二千四百九万五千六百九十七円九月末までの累計
一億九百三十四万六千九百十四円となつております。

調定済額に對します収入額の割合は九五・四%とな
つております。収入未済額は調定済額に對して四六%

次に支出で予算額三億四千七百三十一万二千四百二十六
円でありまして今月までの支払通知額は一億三千八
百三十一万三千四百七円となつております。予算残
高は二億八百九十九万九千九百九十九円となつております。
収入支出差引金は四千四百四十二万六千五百十六円であ

りまして、このうち公益貨屋会計へ五十五万、簡
易水道へ三十七万一千円、休養施設会計へ百万円
流用となつて市令庫の現在額は三千九百五十万
五千五百十六円となつております。

特別会計につきましてはお手元に御報告申して
お通りでございます。省署と照合してあります。
以上関係資料及び証拠書類と照合してあります。
でその計数は正確と認め、次第でございます。
次に報告第二号に移ります。

三五年末一般会計方式の市税収入で調査済額一億
四千六百十六万八千五百五十六円であり、

三月末現在収入額五百九十六万九千六百五十七円
三月末までの累計七千五百五十六万三千百十九円
調査済額に対する収入済額の割合は五二・七％

収入未済額は七千六十万五千三十七月と成つてあります。
この内訳は過半支分滞納額千三百七十六万八千百
八十五月、本年支分滞納額千二十万二千二百三十七月
納期未到来の分は四千六百五十七万四千六百十五月と
なつてあります。

税外収入におつて一月末の調定額^清は一億一千八百
五十一万五千八百五十九月、一月末までの累計は一億
一千三百三十九万八千三百四十五月と成つてあります。
調定済額に対する収入の割合は九五、六%と成つて
あります。収入未済は五百一十二万七千月余でございます。

次に支出で予算額三億六千四百五十三万九千九百五
十六月に対し支払通知額は一億六千二百二十五万七千八百
月と成つてあります。予算額に対する支払通知額の

子算残高は二億三百二十八万二千百五十六円、ヒナ、
てありす。

収入支出差引金は二十八百三十四万一千五百二十一
市金庫現在高は二千六百四十万七千五百三十八円と
なりてあります。

特別会計はお手元配付してあります報告書の通りでありますので有罪させていただきます。

いすれも関係帳簿と符合してありますのでその計数は正確と認めました。

次々報告第二号に移ります。

三五年末一般会計支入市税収入で調査済額は一億五千三百五十五万五千四百五十一円でありまして二月の収入済額は八百八十七万三千三百十八円累計

は八千四百四十三万六千四百三十七円で調査済額に
対する収入割合は五五%でございます。

収入未済額は六千九百十一万九千十四円となり、また、その内訳は過年度分、滞納額は千三百二十七

万九千十四月となりてありまうす 本年迄の滞納額は
 千三十三万月となりてあり 納期未到来の分は四千四百五
 十万五千二百四月で納期到来に対する滞納の割合は
 二・八%となりてありまうす。

次に支出で予算額は三億六千四百五十三万九千九百五十六月に対して支払通知額は一億九千六十八万五千二百二十七月であり、予算額に対して五十三万とあってあります。予算残高は一億七千三百八十五万四千七百三十三月とあります。

税外收入を落しこみで補足する

調定済額が一億四千八百五十三万五千七百五十二月
予算額に對して六六% 本月の収入は二千七百九十一万
二千八百三十三月 本月までの累計は一億四千三百三十一万
四百二十八月 これは調定済額に對して九五%と
なりす。 収入支出差引額は三千五百二十四万五千
六百十月の黒字でありまして公益貨屋に五十五万、
簡易水道に三十七万一千月 休養施設に百万液用、
市金庫へ現在高は三千三百三十一万四千六百十月とな
ります。

次に特別会計の休養施設一二月三〇日現在におきます損
益検査の結果を御報告申し上げます。

純益金として八十九万八百四十四月となりす。

この表の収入支出差引金は八万六千四百三十三月となり
すが、これは純益金から備品、什物、器具、新に購入

してありますのでこの差は間違っていないとせん。以て関係帳帳及び認拠書類とも符合してありますのでその計数は正確と認めました。

読みて報告第三号について申し上げます。

小学校及び中学校の監査は本月の六月八日一四日一五日の四日間に行なりまして監査を実施いたしました。

また畑小学校及び都合によりまして次回に回すことにいたしました。その結果はお午えに配布の報告の通りであります。概要について申し上げます。

整理面の整理物品の管理保管は各学校ともおのれ良好と認めました。

物品購入は購入簿に記載してそれと正確にすべきにもかかわらず中には口答をもって管理者の承認を得て購入しているものがあります。そのために不明な

もへばありまゝだ。

もう一つ事務運送用、切手票書は受払簿と備えつけ
常々その受払いの明確にすべきにもか、わうず各学校
とも大部介備をつけてありません。

備品についてはP、T、A、その他の方より物品の受入れ
統が各学校とも日とんど未完でありまゝだ。

＊
備品の不要のものに対して棄て廃棄処分をうられて
あります。その処分、物品が不正確なものがほとんど
でありまゝだ。

以上監査の概要を報告申し上げた次第でございます。
議長 山本 昇 君 日程第二議案第九四号を二程い
ます。

(書 記 朗 読)

議案第九四号

生徒用机腰掛の購入について

庶務課長(鶴沢)貫賞君(議案第九四号)について御説明申上げます。

この工程理由は先ほど市長さんの提案理由にある通りでございます。

委員会では企画として、館山木工、安田木工、笹子工務店の三業者から見積りをとり、その結果館山木工が最低でございます。それで館山木工と購入契約をいたします。

この腰掛機一組は単価が千六百五十円でございまして、代金の支払いは三六年度から支払いたいというものでございます。

議長(山本 昇)君(議案第九四号)につきまして御質疑ありませんか。——と認めます。

議案第九四号 討論省略 採決通り決定いたします。御

異議ございませんか

(「異議ござい」と呼ぶ者あり)

議長(山本 早川君) 御異議ございと認めます。

よって本案は原案通り決定いたします。

議長(山本 早川君) 続いて日程第三議案第九五号を上程いたします。

(書記 朗読)

議案第九五号 市道の路線の認定について

建設課長(新井重助君) 議案第九五号について御説明申し上げます。

次の頁の図面を御覧願います。まず中に斜線がついておるところが認定する路線でございまして、それと左司七五郎敷が二六坪ありでございます。

代はか六名が払い下がりを受けることにし、その払い下がり地は、いゝ道が
ないといふことで、それと戦務局におき、道路として市が認定するようば、巾四、五メートル
へ道路地を残すといふことと、いふことでござい、ます
へで今、認定しようとするものでござい、ます
よう、くお願、い、ます

議長（山本 早一郎）議案第九五号 討論有 畠 稔 稔
決定、い、ます、御異議、ござい、ません、か、

（異議、ござい、と呼ぶ者あり）

議長（山本 早一郎）御異議、ござい、と認め、ます
よ、って、本案は、原案通り、決定、い、ます、

議長（山本 早一郎）議、いて、日程、第九六号、と、い、程、い、ます、

(書) 記 訓 読

議案第九六号

市定資産評価審査委員会の委員の選任について

市長田村利男君

市定資産評価審査委員会

雄君でございませう

長も勤めの方で人物とも評価委員として適当だと

存じますのでさうに選任していいと思うわけでございます

です

議長山本

早 君 議案第九六号 討論有 畧 採案通り 決定

いゝますに御異議ございませうか

(異議あり) と呼ぶ者あり

議長山本

早 君 御異議ありと認めます

よって本来は採案通り決定いたします

暫時休憩いたします 午後一時より再会いたします

一一時五十分休憩

一時の分商會

議長(山本 昇)君千後の出席議員數二八名休憩示にリ
続々會議し開きます。

日程第五議案第九十七号下上程いります。

一書回 記 訓 談

議案第九十七号 館山市財政調整積立金条例の制定について
総務課長(山口 実)君議案第九十七号について御説明申し上げ
ます。

本案の提案理由と申し上げます。

本年四月地方財政法の一部改正により地方財政健全の
確保という見地から当該年交と前年交の一般財源
を残した場合、決算と剰余金の処分等について規定
が設けられていまして、この法律の改正に

より新積ま基金条例を制定して改正若くは本法に基く
本市の財政調整基金に関する条例を廃止しう
とするものでございします。

第一条は積ま基金の目的並びに積ま基金とするものの
財政事情について述べたものでございします。

第二条は積ま基金とする場合の趣旨並びに積ま基金
から生ずる利子、処分について明記したものです。

第三条は積ま基金の管理方とこのように命じられたもので
ございします。

第四条は積ま基金の処分について。

第五条はこの条例に對して必要な事項は市長が定め
ることになつております。

これの二項館山市財政調整基金に関する条例は廃止
しようとするものでございします。

田舎（志村信作君）この条例は追加予算の額を超過した場合に適用するのですか、

追加予算との関連をもう一つくわしく御説明願います

志村課長山口 実 町地方財政法の第七条剰余金にこういうことが書いてございします

「地方公共団体は各会計年度において支入支出の決算上剰余金を生ずる場合においては当該剰余金のうち二分の一を下らない金額はこれを剰余金を生ずる翌々年度までに積み立てるは償還期間を繰り上げて行う地方債の償還の財源に充てなければならぬ」というふうな繰越金について繰越金の処分というものは今までのような放漫な状態でなく計画された組織ある積立金によって次の事業に入るべきで、こういうふうに財政法でいっているわけにございします

。四番（吉村信作君）「……」の御説明でよくわかりました。
屋下屋を架するようになるのかえって運用上疑
義を生じませんか。追加予算のつかうかどうか。積み金
のつかうかどうか。この法令についてはどういうふうにするのか。
。総務課長（山口実君）「積み金の場合には議会の議決を願
いますからその時の状況によつて審議していただくこ
とになります。」

。三六番（鴻貫水作君）「今までの財政調整基金は幾らあるの
ですか。」

。総務課長（山口実君）「ございませぬ。」

。議長（山本 昇君）「議案第九号討論省署原案通り決定
します。」

（「異議あり」と呼ぶ者あり）

。議長（山本 昇君）「御異議ありと認めます。」

よって本案は原案通り決定いたすこと。

議長 山本 早稲 続いて日程第六議案第九号を上程い

たす。

(書記朗読)

議案第九号 昭和三十五年定期不平当の特例に関する条例の決定について

。職役(小出男) 議案第九号について御説明いたします。

本案は本年不況支給する定期不平当につきまして基本条例によることができず、よりましと関係上特例を設けて実施しようとするものでございます。

定期不平当は本来勤勉手当と定期不平当の二本立てで成るものでございすすが一般の概念から申しますといわけであるが、不平当と福利とそれと一諾に、そのものといわけであるが、現在でございす。

ところで昨年度は二二割と職員に支給したのでござい
すが、その後社会情勢の変化もございます。特に物
価の上昇、あるいは職員の生活環境、マウにまた他市とい
例等も参考と考へて、き市の財政の限内において
職員給与と折衝の結果、職員に対しては基本条例にお
いて二五割五分、これに本議案とは関係ございせんが
マウに一割五分程をを加えて折衝致しましてのござ
います。

こうして関係と基本条例によることがございせんので
基本条例で一八・五、いわゆる二〇〇分の二一・五といふこと
によつて今申へる格に額がでるのでございます。

そこで条文につきましては二〇〇分の二四・〇と二一・五と読み替
へることによつて、今申へる格に結果がで
ることになります。

さうな三条の議員の方でございますか。これもいろいろ他
市の例等も参考に——して特別職の例にすうい——
て同率と支給——い。二月と三と五と支給する、

そこで今申——う。さうな関係で、議員の方には勤勉
年当り五〇分の額があり、せんへで当然同額にするた
めにはこの条例による期不平当の額と五〇ふやし——て
二三、五にするにとよって今申——エグなうな額がで
るわけでございます。さう読み替へ規定を設け——
て年末に支給——す。期不平当の調整を——い。さ
うな意思の下に本案を提案——た次第でございます。
どう——御協賛あうんことをお願い申——エグます。

三六番（鴻貫世作君）他市の様子も聞——ていた、まていとい
うこと、それかう年当りの総額がいくうになるか、それから
この財源でありますか。従来——ば——ば予算を廻し替へ

ることによつて賦課をせしめる場合があるつてですが
私は予算の執行途中まで三ヶ月も残つてゐる今
日これを細み替へることはあまり奨励しない方が
いいんじゃないかと思ふんでお尋ねするのです
賦課をどこにお求めになつたか、それから臨時職
員の期末手当はとういうふうにおつちになるか、その
点についてお伺いいたします。

○助役（小出男君）お答をいたします。

他市の例ですけれども、これにつきましては正確な情報は何
しろないでございまして、――の情報として私も知つて
ゐる範囲では昨年度の例をみますと大体二割
から二六・七割が昨年度の例でございまして、さらに本
年度はこれも推定ですが大体二四割五分から二八割
ほどじゃないかと推定してゐる次第でございまして。

それかう総額はこの条例が決定して執行する
といふますと千六百九十六万が必要財源として
必要でございます

前年比は千二百八十万 約四百万位の増、もちろんこ
うなものは年間における職員へ給与ベースが上、である
とかそういう関係がございましてこうなるわけござ
います

財源でございますが、まだ中途でございますが第四、四
半期に入りましてれば大体今後の推定はつきりますので
当然ある部分については組み替えをしようと、それでも
足りない財源は地才交付税でも、充てる、こういうふ
うに考えております

それかう臨時職員でございますが、私どもの考之方
といふますとは特に日雇いの方よりは相当困つてある

実情かう勲業いささして昨年よりは大幅に
支給してあげたいと思ひまして所要の財源を
あてはめてございます。

。三六番(鴻貴作君)大幅に上げていとおっしゃるんですが
率をきまつてよりさうさう率を

。助役(小出武男君)臨時職員の中にも二口ございましてい
ゆるる長期にゆるるものと、短期三月、半年というの
がございます。長期にゆるるものは公共組合に加入
さしてある職員でございます。それにつましては
存職一年以上のもつては五日分と支給してある。
それかうたつ月以上一年未満の者は三日分、三月以上六
ヶ月未満の者は一日分、それが長期関係の臨時職員
に対する率でございます。

それかう短期一般の臨時用人でございますけれども

「異議あり」と呼ぶ者あり

議長山本 早(君) 薨つて曰 行第弔、議案第九九号 一〇〇号
一〇一号 一〇二号 一〇三号 一〇四号 一〇五号 一〇六号 一〇七号 一〇八号 一〇九号 一〇十号

議案第九九号 昭和十五年 文部省 館山町文部局追加更正算

議案第一〇〇号、昭和五年支館山市特別会計公益質屋之支出追加予算

一〇一号

国民健康保険

一〇二号

と畜場

一〇三号

休養施設之支出追加予算

。総務課長山口 実君一昨會計支出について申しを致します

第一款 議会費において今回五十一万二千四百円 追加をお願い

いたすまい、諸平年で四十五万二千四百円、今歳決

算の條例によつて支給される不足見上額と計とい

う、次に三節食糧費、交際費の、不足見上

額と計といふまい

。秘書課長山谷潤初君次に二款市役所費、三月職員手当百二十

六万八千二百五十円追加計といふまい、が、この中の期

末平年は可決といふまい、條例令でござい

退職平年六十八丁は新年に入りまして六名の退職者が

ありきとぞう年までいいます。その残額は宿日

直年まで四十万と更でいいます。

宿日直年までの余額は今年一月から戸籍事務と本方に移管したため出張費に当初予定より多いに直員日直員を置く必要がなくなりました。概算四十万の残額でわけていいます。以上でいいます。

事務課長山口 実 君次へ需用費について申しあげます。

文具費で四万月 消耗器具費について十四万月不足見込額

を計えています。一三節食糧費一万五千七百四十月は

夏の間に送來は麦湯に使ってあったりしますが茶と使用

したものでこの一月約千二百月増やしたので二月分と

計るにわけていいます。次は印刷費十五万月は

印刷の件数の増加により依頼している。

次に備品費五万四千月は秘書課に英文タイプライター

がなか、そので購へようとするものでございます。
次に広報費の備品費、今国千葉県下各市において
広報無線機を設置するにとりまして、そので本市に
おいても広報無線機を五万五千円で購へようとする
ものでございします。

次に第三款消防費について申しあげます。

総額四十八万二千五百五十円の追加をお願いいたしま
す。消防本部費とあって旅費で二万円、これは今回
消防法の改正によりして危険物取扱の講習会が非常
に多く消防職員の出張が多くなつたので不足見込額
下計といつてよろしい。

二項消防署費三十一万五千五百五十円計といつて、旅費で
三万円は岩田司令補が東京消防大学に入校いたつて
目下研究中とございしますが、これらの費用に充てるもの

でございす

職員手当二十八万八千五百五十月付

期末手当の増額分をございす

次の九節手数料は消防公債に対する登録手数料

二千月 日銀に支払うのでございす

三項消防団費で十六万追加をお願いいたします

工事節費と十六万月でこの内は一分団の詰所工事

費十四万と神余の川止めは約三万月計といふこと

建設課長(新井重助君)工本費について申しとります

一項二目新設改築費におきまして負担金四十三万五千

円追加をお願いするでございすがいれは九重

地先の改良と神余の二ヶ所でこの負担金が六十七万五

千円をございすがいれは当初見込みの額が二十四万

をございすので四十三万五千円をお願いいたします

三項河川港湾費二目新設改築費いれは負担

金といふことにて船形港から県道に通じます
道路でこれも今回舗装することになりまして本線
は市道でございましてが臨港道路として県が舗装い
たすということと九十万の手算をもつて舗装工事と
することになりましてあります。これの管理令四十五万と願
ひするわけにございまして

五項水道費は期未手当てにございまして

五款都市計画におきまして主要幹線街路事業費とい
うことで更員給技師二人主事一名の俸給を見込みま
す。これは当初都市計画道路二千万円で工事計画とい
うことになりまして今用建設省へ決定が二千四百万とい
うことで四百万円増額になって参ります。四百万円の増額に
伴いまして事務費工事費がふえまして更員給も二月
三月の給料十六万五千四百円を見込んだわけにございまして

それら扶養手当といつて九千百三十円、次の需用費におきまして、それより四千円、一万五千円更正いたし、また、これは以上の費用の一部に充てたのでございます。道路改良工事費の工事請負費において、二十万円の追加は、池貝鉄工所の中へ橋梁をもう一本架設するといふことで、工事費の増額に及び不足いたすので、二十万円の追加計をいさすことになり、また、三節五十六万円の三三節百十万円は、これは工事の増額に伴ひ、まして船形駅前メセロメートル合、改良が未済になり、てありますので、その方へ費用を振りかけていきたいと思います。てあります。が、工事費へおきまして、すなわち、せんので、家屋の移転がございまして、その一部を三六年度に、その他の家屋の移転と土地を買ひ、まして、来年完了させたいと考へ、まして、この計といつた次第でございます。

公園費におきまして四十万円を願ひするわけですが、洲の崎燈台のりきと大きな広場がございます。これは固定公園の区域となっております。この区域に休憩所あるいは便所等の施設をいづかして一般遊覧客の便をはかして固定公園の整備をはかうというものでございます。これは国費が四十万、果費が四十万、市費が四十万、百二十万円の費用をもって建設するわけでございます。その四十万をここに計上したわけでございます。

公営住宅建設費でございます。今岡市営住宅を建設してあります。請負も契約が済みました。今今工事中でございます。一応住宅の設計上の建前ハウ工事費と事務費が二つ、国庫補助の対象になります。そのうち事務費が当初十六万円で、二丁

万円で、てい、ということに二十万円でエグマて追加
 する願ひするのでございます。なお工事費でございます
 すが当初水道工事は直営で施行するという考への下に
 予算を細んだのでございますが実施にありまして
 それだけの人員の余裕がございます。その中で全部請負契
 約にすれば、そので賃金、消耗品、燃料費、修繕料、備品費
 工事請負費、原材料費と変更したのでございます。
 なおこの家屋建設に伴い、まして電氣を引くことは
 ないといふことと、その費用という、まして三三節委
 託料で二十万円追加、なお施設費の二十万四千円。追加
 は国有地一五坪の松下げがござり、ましてそれと民有地
 が一五三坪ございます。この土地を購入することとござり
 まして不足額という、まして二十万四千円と願ひ
 するわけでございます。三三節補償金、補填金に十九万

九千九百円お願ひするのです。これは土地の中へ
イロミ製造工場がございまして、これを移転させられ
ば家屋を建てられたいので、この移転費用として追加
お願ひするわけでございます。

以上細かいところは説明と省略させていただきます。

庶務課長 鷗沢貫寛 君 第七款教育費について御説明いたし
ます。

教育費につきましては、今回百十六万二千九百円の追加
と、お願ひいたしまして、二件を除きましては期元平当
の増額でございます。

第一点は、小学校教育費の需用費で、三三節修繕料三万八千
円追加いたしまして、これは神戸小学校の放送施設の
配線がいちいち、使用に耐えにくくなりまして、それで
そのための修繕料でございます。

もう一つは高等学校の旅費で三万四千円。これは中学校の教科改定に伴い、そして高等学校も三八年改かう教科改定になるので、その準備として三五年から三七年職員への研修と果の教育委員会ですりますのでそれに要する旅費が当初予算に見込んでございます。ろーバのでそのための追加額でございます。以上。

福祉事務局長(長谷川 玄治君) 一歳について御説以申しエグります。福祉事業諸費といまして、そして三三節へ十万円計といまして、これはかつて堀口 貴氏から社会事業の金として使用してもいい、こう申しまして十万円の案はの申し出がありまして、それでこれを受け入れて、いろいろ昇格の意見等も、そして三三三三に始まりまして困る人々から借入出す民生金庫というものが設けてあります。これの元金に預められて使用して

く考へて十万円計といつて、他の三項目につき
ましては期末手当の肉保でございまして、で省累い
ます

○厚生部長(伊藤幸太郎君)第九款の保健衛生費でございまして、
そのうちの隔離宿舍と葬場費は期末手当でございまして、で
省累いまして、

第八項環境衛生費の賃金十万円は賃金不足分でござい
ます

第九項の清掃費の賃金も同様臨時用人雇料の不足
分見込み、それから借料及び損料、これは土地の一時的借
上料、次の修繕料、これは自動車の車検の費用追加分
工事請負費十九万八千円は一応推定見込み、これに
けでございまして、現在計画中でございまして、尿
処理場の候補地の水源調査のための試験請負費で

でございます。次の負担金補助及び交付金の五万月分は

現在市内の清掃者三業者でございますが三業者共同の貯留槽を作らねめの補助金でございます。

農産統計課長吉田耕一君は、穀産業を消費につまきつて御況のいります。

農業委員会委員への報酬につきまして三万九千月の追加これは先般行いまして農家台帳の作成におきまして調査員報酬一四七人分一人あたり二百七十月弱の報酬額と計した次第でございます。

統計調査員でございますが三万三千余月の追加をお願いいたします。一目調査員報酬一万四千七百九十月と計した次第でございます。

次の報償費でございますがこれは世界農林業セミナー事後調査と調査員にお願いいたします。

対する謝礼金といふことにて千三百円 更に貸金で
一万七千五百余円不足額を見とみことにて計といふこと
に、農業委員会費、統計調査費、こうして全費の財源
といふことには、国庫支出金並に国の委託金により
まゝで財源を求めてある次第でございます。

選管書記長大島重義君一三款選挙費について御説以申し
上げます。

今週三十三万九千七百円の追加をお願いいたします。

二項選挙費発費で五千円へ追加は報償費として講演
会講師謝礼でございます。

五項衆議院議員選挙及び最高裁判所裁判官国民審査
費に於いて十四万二千八百三十円の追加をお願いいた
す。このうち一目で七千七百三十円へ減は投票管理者として
市の課長職にあるものとして一部あてることと、開票の際

主合人が少なかつたことの減額でございます。

二目旅費、六万月追加は委員の費用并償三万月普通旅費に三万月でございます。

四目需用費の九万五万五丁月でございますが、その内訳は報償費五千月、投票率の優秀な部落を表彰いたすに記念品代でございます。九節債令三万月、

公布揭示等の板削り、運転手等の二倍と料でございます。消耗品費四万月、これは文具費用紙類に二万月、

耗器機費で三万月、これは主に鉛筆削り等の器具類でございます。倉庫費の四千五百五十月は表彰式

の際の賄料でございます。広告料三万月、葉巻防

止とか名簿作成等の広告料でございます。次に六項、参議院議員選挙費で七万四千二百四十月、追加をお願いいたします。報酬の減額は先ほど

の衆議員の選挙と同じ理由でございます
二月旅費で四万五千円も委員の費用弁償と五日
通旅費でございます

需引費におきまして五千円は先ほどお話しし
した優秀部落の表彰の記念品代でございます

経費金七千二百二十円は臨時用人期不干渉三人分の
合計でございます 印刷製本費五千四百円は

主として立合演説会への広告の印刷代でございます
ます 委託料五千円は公明選挙の宣伝として

推進協議会の委託料でございます 備品費一万
五千円は主として書庫分を予定しております

なおこれらの選挙費のうち選挙啓発費 衆議院
選挙費 参議院選挙の費用につきましては金額

国庫へ負担金でございます 市費持分はござ

いませんへでよろしくお願ひいたします。

総務課長山口 実君一四款公債費について御説以申し上げます。

元利償還金、利子において三十一万七千四百九十月減額
いはしき、これは学校港灣などの起債が一ヶ月遅
れた関係上一年分へ予算が細く入ったのですが一月
減少いはしきなりで三十一万七千四百九十月減額する
ものでございます。

第二項一時借入金、利子は本年までかゝるので五十万月
減額しようとするものでございします。

次に第一五款諸支出金でございします。これは惣山荘
に五百十八万七千五百月繰出しを予定してゐる、それで
ございします。その後全営状態も良好でございして
いて、三十一万月減少して四百四十八万七千五百月

繰出そうとするものでございます。

オオ合計 今圓の追加額七百五十三万八千百三十円
合計三億六千九百十三万六千七百七十円

次にスルに申し上げます。

ニ款 国有提供施設等所在市町村助成交付金について
御報告申上げます。 今圓百七十六万二千円に決定
したので二十六万二千円追加申上げさせていただきます。
次に地方交付税でございます。 普通交付税として
二百十一万一千円 特別交付税として百五十二万九千
円増額見込みがついたので計二百六十三万九千円。

次に国庫支出金について申上げます。 四目災害
土木費負担金三十一万二千円は市道船形の港の部
分の道路が昭和三十三年夏の災害で四メートル五。ば
り破壊したのでございます。 これに対する工事

費の補助金と計より一了一

次に国庫補助金二目都市計画事業費補助金二百六十
十七万月について申上げます。街路事業とい

うして当初二十万月の予定で工事をしてあ

たのでございしますがこれが二十四万月と増額にな

る。この四百万月に対する国庫補助金の増額二百六

十七万月と計より一了一

次に五目産業経済費補助金でございしますがこ

れは農家台帳並にその保管事務に対する補助

金でございましてお出において説明のありました額で

四万三千四百月でございします。

次に三項委託金で二十五万五千七百^{三十}月の追加でござい

します。これは一目統計調査委託金として二万二千百七

十月 世界農林業セリヤス委託金一万一千四百九十円

合計三万三千六百六十円でございす。

次に選挙委託金として三十二万二千七十円追加
さいろーきーと。これは選挙啓発委託金として
五千万 衆議院議員選挙及び最高裁判所裁判
官国民審査委託金として十四万二千八百三十円
参議院議員~~選挙~~託金として七万四千二百四十円
れー計とさいろーきーと。

次に八款果支出金一千万の追加は広報無線機に付
する果の補助金で一万円。

次に九款果付金四目土不果付金でございす。が
これは船形港付近の舗装に要する費用のうち
地元かつ二丁二万五千円入ったものでございす。

次に社会福祉果付金でございす。これは長谷川
町長より花町のあつた十万円でございす。

又入合計三億六千九百十三万五千六百七円又入又出差
引き残金一〇一以エであります。

厚生課長伊藤幸太郎君議案第一〇〇号 特別会計公益質屋
議案第一〇二号 特別会計と畜場、これはいづれも期末平
当の関係でございますので省畧させていただきます。
保険課長(神作啓次郎君)議案第一〇一号について申しエゲます。

一款市役所費 四目需用費貸金を八万七千九百円
追加する額、一〇〇のでございますが、これは三十七年
迄の臨時用人料でございます。

三目諸手当は期末手当関係でございます。この予算
と、一〇〇一では予備費を更正、一〇〇一は次第です。
次に直営診療所について申しエゲます。

三目諸手当四万五千五百五十円、これも期末手当の関係
でございますので省畧いたします。

この取決は予備委員と更正しました。以上でございます。
。商工水産課長羽山房雄君議案第一〇三号特別会計休養
施設の說明をいたします。

又出からう申しエグります。

現在の利用状況から見てましてその不足分は追加を要
願いするとともに新々工事請負費あるいは原材
料費を要願いたします。

職員費のうち需用費の原材料費百二十五万。これは
営業用原材料費で一月大体二十五万で五ヶ月分と
見てみました。

休養施設建設費のうち二四節工事請負費に三十五万五千
円を要いたします。これは果道から宿舍に通する
道路の整備に三十八万円。それから倉庫を建てたい。こ
れに三万五千元その他造園、手すり等に四万円。計三十

五万五千元の願いしようとするものでございます

なお六節の原材料費は五万五千元は造園の工費と
花壇あるいは整備した道路の付近へそてつて五万五千元
あるいは桜の木を五万五千元購入して植えたい、こういう
考えで計を立てたわけでございます

次に五入でございます事業収入において、大いいま
までの状況からみまうと大体、これ位の収入が増加す
るものと考えて上程したわけでございます
よろしくお願ひいたします

議長山本早苗君以上を一括上程いたします議長に対
する説明は終了いたします

御質疑ございせんか————と認めます

議案第九九号乃至議案第一〇三号は原案通り決定いた
しますに御異議ございせんか、

「御議事」と呼ぶ者あり

議長山本昇君御議事と認めます

よって決定いたす

暫時休憩いたす

二時十分休憩

二時三十分再開

議長山本昇君休憩前に引続き会議を開きます

日程第八認定第一号乃至第四号昭和三十三年
一般会計及び特別会計の決算書を一括して議題と
いたす

御託省略いたしますことに御議事ありませんか

「御議事」と呼ぶ者あり

議長山本 早(君)御異議ございと認めます。

よって有異議ございます。

市長(田村利男君)本日当初に申しエグジット通り三四年迄各
会計決算の認定の件でございます。がこれにつきま
してその意見書にて各部内別に予算の執行と経過
ごとくに開する報告書にて添付してございますのでよろ
しく御審議の上お願ひいたします。

議長(山本 早(君))これより認定第一号乃至第四号につい
て一括質疑を行います。

御質疑ございますせんか。

〇三三番(山口幸三君)動議を提出いたしますので登壇下
お許し願ひいたします。

(三三番山口幸三君登壇)

〇三三番(山口幸三君)さういふ議題としましてあります認定

第一号乃至第四号 昭和三十四年文一般会計及び特別
会計決算書の審査について議事進行と動議を
提出いたします。

決算書の審査につきましては従来の例もございます
が、とりわけて慎重に審査を行う必要がありますと
ともに相当の日時を要することと思われ、

よってこの辺で決算審査特別委員会を設置し、その期間
は三月の定例市議会までの間におきまして審査を願
うよう直ちに託されるよう、この議会運営協議
会を以て表わし、まして議事進行の動議を提出いたす
は前例にならうとして委員の数は一〇名位選任の方法
は議長 監査委員並に前回決算委員となら
るを除いた中から議長の指名により選任いたすと思
います。以上申しあげまして首々の方へ御賛同を
得たい

と思う次第でございます（拍手）

議長（山本 昇一君）　さういふ三番議員君より提出されまして
議事進行の動議を議題といたします。

さういふの動議は認定第一号乃至第四号の審査と特別
委員会を~~再~~設置してこれに付託し特に南会中審査
の特別付託をいましてということでありまして
おけりいまして　これに御異議ありませんか。

（異議なし）と呼ぶ者あり

議長（山本 昇一君）御異議なしと認めます。

よって決まりました。

読んでおけりいまして　本動議によりましてと委員
の数は一名選任の方法は議長監査委員及びすで
前年決算委員とす。者を除いて議員中より議長に
おいて指名するということでありまして　これに御異議

ございませんか、

（異議なしと呼ぶ者あり）

議長山本 昇一君御異議なしと認めます

よって以上の通りに決定いたすこととす

これより決算審査特別委員会へ委員を指名いたします

三番議員三沢 節君、九番議員吉田勇治郎君、一〇番議員佐野 信君、一二番議員黒川佐太郎君、一三番議員長谷川元江君、一五番議員小林寅之助君、一九番議員法本 嗣郎君、二〇番議員萩生田七郎君、二三番議員吉田 辰雄君、二七番田中忠 蔵君、以上十名の方で決算審査特別委員会へ委員に選任いたしますこととす
異議ありませんか、

（異議なしと呼ぶ者あり）

議長(山本 昇君)御異議ありと認めます

よって決定、さうです。

さういふ選任され、さうして決算審査特別委員会に
認定第一号乃至第四号の審査を一括して付託し、内会
中審査を付議、さうです。

これに御異議ありませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(山本 昇君)御異議ありと認めます。

よって決定、さうです。

さういふ選任され、さうして委員の方は本日中に正副
委員長の互選、下され議長に御報告を願います。
以てさういふと本定例会の議事全部を議、さう
です。

おはりのさうです。これにて定例会を閉会、さう

ます、御里議でございますか

(「里議」と呼ぶ者あり)

議長山本 昇(召)御里議と認めます

よ、てこれにて本支例会を肉会いたします

二時三十分肉会

昭和三十五年十二月二十二日

右会議、次第下録し、に署名す

館山市議会議長

山本

昇

同 署名議員

佐々木 忠作

同

山口 梁

